

厚生科学研究費補助金

循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究に関する研究

(令和) 7 年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 山崎 聡

(令和) 8 (2026) 年 5 月

目 次

I. 総括研究報告

温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究	1
山崎 聡	

II. 分担研究報告 4

1. 日本温泉気候物理医学会との連携

堀内 孝彦

2. 温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究 ～フレイル領域～

松元 秀次、石本 立、宮良 広大

3. 温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究 ～変形性関節症、痛風・高尿酸血症領域～

大村 浩一郎

4. 温泉療法による健康増進効果について、生活習慣病（高血圧、脂質異常症、糖尿病・肥満、高尿酸血症）、フレイル、変形性膝関節症研究の追加可能性調査

眞喜志 まり

5. 温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究 （高血圧、脂質異常症）

得能 智武

III. 研究成果の刊行に関する一覧表 15

厚生労働科学研究費補助金
(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)
総括研究報告書

温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究

研究代表者 山崎 聡 聖マリア病院 血液内科 主任医長

研究要旨

生活習慣病・ロコモティブシンドロームに対する温泉療法の有効性をシステマティックレビューで検証し、運動療法を組み合わせたエビデンスに基づく標準温泉療法プログラムを構築する。電子化した「温泉療養指示書」を連動させた多施設前向き観察研究によりQOL変化を評価し、DPCを基盤とする診療情報データベース解析から薬物療法のみでは管理不良な患者を抽出して温泉療法の適応患者像を定量的に規定する。得られた知見から標準プログラム、療法医向け指導書、一般向け啓発資料を作成し、温泉療法の適正利用と地域包括ケアにおける健康増進・医療費抑制への貢献を目指す。

研究分担者

林 敬人・鹿児島大学大学院医歯学総合研究科・法医学分野・教授
堀内 孝彦・福岡市立病院機構 福岡市民病院・院長
北條 達也・同志社大学・スポーツ健康科学部・教授
前田 豊樹・社会法人三愛会介護老人保健施設たばる・施設長
松元 秀次・茨城県立医療大学・保健医療学部医科学センター・教授
大村 浩一郎・神戸市立医療センター中央市民病院・膠原病・リウマチ内科・部長

柏戸 佑介・広島赤十字・原爆病院・リウマチ科（膠原病）・医師
益田 郁子・十条武田リハビリテーション病院・リウマチ科・部長
眞喜志 まり・慶應義塾大学・医学部・特任助教
得能 智武・福岡歯科大学・口腔歯学部・教授
石本 立・北海道大学病院・リハビリテーション科
宮良 広大・九州看護福祉大学・看護福祉学部リハビリテーション学科

A. 研究目的

温泉療法による健康増進効果について、生活習慣病（高血圧、脂質異常症、糖尿病・肥満、高尿酸血症）、フレイル、変形性膝関節症を包括的に評価し、最新のシステマティックレビューと前向き臨床研究・ビッグデータ解析を統合して「日本発のエビデンス」を体系化する。

B. 研究方法

生活習慣病およびロコモティブシンドローム（以下、ロコモ）に対する温泉療法の有効性をシステマティックレビューで検証し、運動療法も組み合わせたエビデンスに基づく標準的温泉療法プログラムを開発する。温泉療法に関する論文の包括的評価と「温泉療養指示書」の電子化を行い、多施設前向き観察研究によりQOLのアウトカムを評価する。得られた知見から標準プログラム、温泉療法医向け指導書、一般向け啓発資料を作成し、適切な温泉療法の普及と地域包括ケアにおける健康増進・医療費抑制への貢献を目指す。

【用語の定義】

本報告書における「生活習慣病」は高血圧、脂質異常症、糖尿病／肥満、高尿酸血症の4領域を、「ロコモ（ロコモティブシンドローム）」はフレイルおよび変形性膝関節症の2領域を包括する表現として用いた（計6領域）。

（倫理面への配慮）

研究に対し書面による同意取得後に温泉療法指示書電子化・匿名化データ収集システムを構築し、「温泉療法と生活の質に関する検討－前向き観察研究－」は臨床倫理審査承認後、症例登録は終了済みである。

C. 研究結果

1. システマティックレビューの成果

6テーマ中、脂質異常症・糖尿病／肥満・高血圧の3本は国際誌に採択済みで、温泉・サウナ・入浴介入が血圧・脂質・血糖など生活習慣病指標に有益な影響を及ぼしうることが示された。

このうち糖尿病／肥満に関するシステマティックレビューは、前田豊樹（研究責任者）、大村浩一郎、山崎聡、堀内孝彦、眞喜志まりの5名で実施した。MEDLINE、Embase、CENTRAL、医中誌Web、Web of Scienceを検索し22研究（全身浴12、足浴6、サウナ2、飲泉2）を採択、全身浴では血糖低下および体重減少が報告され、高温浴および溶存成分を含む泉質でより有効である傾向が示された。本レビューはInt J Biometeorol 2026;70:94として国際誌に掲載済みであり、研究班全体の横断的成果として本総括研究報告書に一括して記載した。

変形性膝関節症についてはRandomized Control Studyによる効果検証を行った49論文の解析を実施したが、温泉水浴、泥パック、運動療法を加えたSpa療養（Balneotherapy）が混在し、結果が煩雑なことから整理に時間を要しており、2026年度内にReview報告する予定で進捗している。高尿酸血症はエビデンス不足のためエキスパートオピニオン形式で整理予定であり、ロコモ・フレイル領域も含めてエビデンス体系がほぼ出そろった見込みである。

2. 前向き観察研究（温泉療養指示書）

「温泉療養指示書」電子化コホートでは、263例登録・211例で温泉前後のQOLセットが確保されており、SF-36を用いた解析前段階でも温泉療法後のQOL向上が明らかに確認されている。2026年3月末で登録終了、データ固定後に詳細解析・英文論文化を行い、5月30日の日本温泉気候物理医学会教育講演で結果還元・発表予定である。

3. DPCビッグデータ解析（脂質異常症）

Medical Data Vision社の全国DPC診療報酬・検査値データベース（約3,000万人規模）を用い、脂質異常症患者約59万人、外来受診約2,360万件を対象に、2024年診療報酬改定前後の脂質管理と心血管アウトカムを後方視的に解析した。LDL-C目標達成率は約58%にとどまり、二次予防例および高齢者で低い傾向を示した。スタチン処方率は約82%であった一方、治療中LDL-Cは約114 mg/dL、主要心血管イベント率は約27件／1,000人年であり、残余リスクが示された。改定前後で薬物療法、脂質管理、短期心血管アウトカムに大きな差は認めず、制度改定の長期的効果の検証には、追跡期間延長および準実験的デザインを用いた追加研究が必要と考えられた。英文論文投稿中。

4. 社会実装・将来展開に向けた成果

別府市湯都ピア浜脇での温泉利用型健康増進施設開設（2026年12月以降予定）を中核に、厚労科研3年目の成果を活用した「別府モデル」実装とRCT等の介入研究につなげるロードマップが班会議で共有されている。

6本のシステマティックレビュー・前向き観察研究・DPCビッグデータ解析を基盤とし、今後の温泉療法ガイドライン、専門医育成プログラム、温泉療法に関わる医療費負担の軽減・全国ネットワーク構築・国際発信までを見据えた中長期ビジョンが明確化している。

D. 考察

本研究班は、生活習慣病およびロコモティブシンドロームに対する温泉療法の有効性を、システマティックレビュー、前向き観察研究、プロトコル化された介入研究計画の三層で体系的に検討してきた。脂質異常症・糖尿病／肥満・高血圧・フレイル・変形性膝関節症・高尿酸血症の6領域に対するシステマティックレビューにより、温泉および関連する温熱負荷が血圧・脂質・血糖・身体機能・QOLなどに一定の有益な影響を与えうること、同時にエビデンスの質や対象集団にばらつきが存在することが明らかになった。

なお糖尿病／肥満領域については、前田豊樹を責任者とする上記5名の体制で、糖尿病・肥満の医療費増大という社会的課題を踏まえ、安価かつ普及性の高い温泉療法の意義を検討した。血糖・体重に対する有益な変化が示された一方、研究デザインおよび泉質・浴用条件の不均一性が残るため、今後は別府モデルにおける介入研究で検証を進める。

一方、「温泉療養指示書」の電子化と前向き観察研究により、実臨床に近い高齢者集団で温泉療法前後のQOL指標（SF-36）の変化を追跡する基盤が整いつつあり、今後登録症例の解析を通じて、どのような背景・併存症を有する患者が温泉療法のベネフィットを享受しやすいかを明確化できると考えられる。さらに、DPCの大規模診療情報データベース解析と組み合わせることで、薬物療法単独では管理不良な生活習慣病・ロコモ関連患者を客観的に抽出し、温泉療法の潜在的適応患者像を定量的に規定しうる点は、本研究班の大きな強みである。

今後は、別府市の温泉利用型健康増進施設をフィールドとしたDCT（Decentralized Clinical Trial）型介入研究や、AIによるPRO・バイオマーカー・歩行能力等の多次元データ解析を通じて、標準温泉療法プログラムの精緻化とパーソナライズ化を進める必要がある。具体的には、SF-36、EQ-5D、PSQI、GDS、Barthel Index、Lawton IADL等のQOL・ADL指標とHbA1c、脂質、炎症マーカーなどの客観的指標を統合し、レスポnder・ノンレスポnderを層別化するアルゴリズムを構築することで、疾患別・重症度別・フレイルレベル別の推奨プログラムを提示できると考えられる。

加えて、本研究の成果は、温泉療法ガイドライン、温泉療法医向け指導書、一般向け啓発資料の作成を通

じて、地域包括ケアシステムの中に温泉療法を位置付け、健康増進・介護予防・医療費抑制に資する政策提言へと発展しうる。AMEDや民間財団による実装研究と連携しつつ、別府モデルを他の温泉地へ展開し、日本発のエビデンスに基づく温泉療法の国際発信と温泉療法に関わる医療費負担の軽減の議論につなげていくことが、今後の重要な課題である。

E. 結論

本研究は、生活習慣病およびロコモティブシンドロームに対する温泉療法の効果をシステムティックレビューと前向き研究により科学的に検証し、そのエビデンスに基づく標準プログラムを構築することで、地域医療・地域包括ケアに資する新たな介入モデルを提示することを目的としている。

さらに、「温泉療養指示書」の電子化とDCT・AIを活用した多施設研究、別府市の温泉利用型健康増進施設を核とした実装研究を通じて、エビデンスの社会実装と他温泉地への展開可能性を示し、国民の健康増進と医療費・介護費の適正化に貢献することを目指す。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Yamasaki S, Kashiwado Y, Akiyama Y, Horiuchi T. Sleep quality and quality of life in older patients with hypertension after night-time hot spring bathing: a single-institution intervention study. *Ageing International* 2025;50:44.

2. Yamasaki S, Tokunou T, Kashiwado Y, Makishi M, Horiuchi T. Hot spring and sauna use for improving blood lipid profiles: A systematic review and expert consensus on efficacy and recommendations. *Complement Ther Med.* 2025;94:103241.

3. Maeda T, Makino N, Ohmura K, Yamasaki S, Makishi M, Horiuchi T. Medical effects of balneotherapy for managing diabetes and obesity: a review. *Int J Biometeorol.* 2026;70(4):94.

4. Yamasaki S, Tokunou T, Kashiwado Y, Makishi M, Horiuchi T. Acute blood pressure responses and safety considerations in heat therapy interventions: A narrative review. *Complement Ther Med.* 2026;98:103341.

2. 学会発表

山崎聡. 温泉医学のエビデンス講座～生活習慣病への効果と今後の可能性～、第91回日本温泉気候物理医学会総会・学術集会、2026年5月30日、群馬県安中、教育講演

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

日本温泉気候物理医学会との連携

研究分担者 堀内 孝彦

一般社団法人日本温泉気候物理医学会 理事長

研究要旨

厚生労働科学研究費補助金「温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究」（研究代表者 山崎聡先生）によって蓄積・整理される「温泉療法による健康増進効果のエビデンス」について、学会として積極的に情報発信を行い、広く学会員および関連領域の専門職との共有を図る。そのため、学術集会におけるシンポジウム・教育講演・一般演題等での発表機会を継続的に設けるとともに、学会誌、ニュースレター、広報誌、Web媒体等を通じて研究成果をわかりやすく発信する体制を整備する。さらに、研究成果を体系的にまとめた成果物やガイドブック等の出版・頒布についても学会として支援を行う方向で理事会の承認を得る。

また、本研究を契機として、厚生労働省、環境省、関連自治体との連携を強化し、科学的根拠に基づく温泉医学・温泉利用指針のアップデートを推進する。加えて、研究班、行政機関、関連学会との横断的な協力体制を構築し、医療・保健・観光・地域振興など多分野との連携を深めながら、温泉利用の社会的価値と健康増進効果に関する最新知見を広く社会へ還元する。さらに、温泉地の医療機関、温泉施設、自治体、観光関連団体、健康産業等との連携を通じて、研究成果の実装や標準的プログラムの普及を目指す。

A. 研究目的

近年、温泉利用が健康増進や疾病予防、生活の質（QOL）の向上に寄与する可能性が広く注目されている。しかしながら、温泉療法の有効性については経験的・伝統的知見が先行しており、医科学的エビデンスの体系化や標準化は十分とは言えない状況にある。そのため、厚生労働科学研究費補助金「温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究」（研究代表者 山崎聡先生）では、温泉利用による健康増進効果を科学的に検証し、標準的な温泉利用プログラムの構築を目指して研究が進められている。

日本温泉気候物理医学会は、本研究によって得られる最新の知見とエビデンスを学会員のみならず、関連分野の専門職、行政、地域社会へ広く共有することを重要な使命と位置づけている。特に、温泉医学の学術的発展と社会実装を進めるためには、研究成果を単に発表するだけでなく、医療、保健、観光、地域振興等の多分野と連携しながら活用可能な形で社会に還元していくことが求められる。

そこで本取り組みでは、学術集会、学会誌、広報誌、Web媒体等を通じた継続的な情報発信体制を整備するとともに、研究班、行政機関、関連学会との連携強化を図り、温泉療法の標準化と普及促進を目的とした活動を行うこと

を目的とした。

B. 研究方法

本取り組みでは、厚生労働科学研究班によって得られた研究成果を学術的・社会的に展開するため、以下の方法を実施した。

第一に、学会との連携体制を強化するため、学術集会において温泉医学および温泉療法に関するシンポジウム、教育講演、一般演題セッションを企画し、研究成果を発表・討論する機会を設けた。今後は、研究班の成果を紹介する目的で、学会誌や広報誌に特集記事を掲載し、研究成果を体系的に紹介する計画である。さらに、学会ホームページやニュースレター等を活用し、学会員への継続的な情報提供を行っていく予定である。

第二に、研究成果の普及と社会実装を推進するため、厚生労働省、環境省、地方自治体、関連学会との情報交換・協議を行い、温泉医学に関する最新知見の共有と行政施策への反映可能性について検討した。また、温泉地の医療機関、温泉施設、観光関連団体等との連携を進め、標準的な温泉利用プログラムの普及に向けた意見交換を行った。

第三に、一般社会への知見還元を目的として、市民公開講座や研修会等の開催を企画し、エビデンスに基づく安全で効果的な温泉利用

について啓発活動を行った。加えて、研究成果をまとめた成果物やガイドブック等の出版・頒布支援について、学会理事会において検討を進める方針である。

C. 研究結果

本取り組みにより、厚生労働科学研究班で得られた温泉療法の健康増進効果に関する知見について、学会員および関連分野への情報共有体制を強化することができた。学術集会においては、温泉利用の医学的意義や標準的プログラムに関する議論が活発に行われ、研究班と学会員との間で最新知見を共有する機会が創出された。

また、学会誌や広報媒体を通じた情報発信により、温泉療法に関する科学的エビデンスへの関心が高まり、関連分野との連携の必要性が再認識された。さらに、厚生労働省健康・生活衛生局、環境省自然環境局、大分県別府市など行政機関との意見交換を通じて、温泉利用を健康政策や地域保健施策へ活用する可能性について一定の方向性を共有することができた。

加えて、温泉地の医療機関や関連事業者との連携により、研究成果を実際の温泉利用プログラムへ応用するための課題整理が進んだ。

市民公開講座（2025年12月Web配信）では、一般市民から温泉利用に対する高い関心が示され、科学的根拠に基づく情報提供の重要性が確認された。

D. 考察

本取り組みを通じて、温泉療法の科学的エビデンスを学会が中心となって整理・発信することの重要性が改めて示された。従来、温泉利用は経験的価値が重視される傾向にあったが、近年では予防医学や健康増進の観点からもその有用性が期待されており、エビデンスに基づく情報発信の必要性はさらに高まっている。

特に、学会が研究班と連携し、学術集会や学会誌等を通じて継続的に成果を共有することは、研究成果の質向上だけでなく、温泉医学分野全体の活性化にも寄与すると考えられる。また、厚生労働省や環境省との協力を進めることで、温泉利用に関する知見を行政施策へ反映させる可能性が広がり、地域保健や健康寿命延伸への貢献も期待される。

さらに、温泉地の医療機関や関連産業との連携は、研究成果を社会実装へつなげるうえで不可欠である。今後は、標準的温泉利用プログラムの実践的評価や、多施設共同研究によるさらなるエビデンス蓄積が求められる。

また、一般市民への啓発活動を継続することで、科学的根拠に基づく安全で適切な温泉利用の普及につながるものと考えられる。

以上より、本研究班と学会との連携は、温泉医学の発展のみならず、健康増進、地域活性化、予防医療推進に資する重要な取り組みであり、今後も継続的な連携体制の構築が必要であると考えられた。

E. 結論

厚生労働科学研究費補助金「温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究」により得られる知見は、温泉療法の科学的根拠を明確化し、温泉医学の発展に大きく寄与するものである。本取り組みにおいては、研究班と学会が連携し、学術集会、学会誌、広報活動等を通じて研究成果を広く共有する体制を整備することで、学会員のみならず関連分野や社会全体への知見還元を推進する体制が確立できた。

また、厚生労働省、環境省、地方自治体、関連学会、温泉関連産業等との連携を進めることで、温泉利用の健康増進効果に関する科学的知見を、医療・保健・観光・地域振興など多方面へ展開する基盤形成につながった。さらに、市民公開講座や普及啓発活動を通じて、一般市民に対するエビデンスに基づく温泉利用の理解促進にも一定の成果が認められた。

今後は、標準的温泉利用プログラムの実践的評価とさらなるエビデンス蓄積を進めるとともに、学会を中心とした継続的な情報発信と多職種・多機関連携を推進することが重要である。これにより、温泉医学の社会的信頼性を高め、健康寿命延伸や地域活性化に資する持続的な取り組みへ発展していくことが期待される。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Yamasaki S, Kashiwado Y, Akiyama Y, Horiuchi T. Sleep quality and quality of life in older patients with hypertension after night-time hot spring bathing: a single-institution intervention study. Ageing International 2025;50:44.
2. Yamasaki S, Tokunou T, Kashiwado Y, Makishi M, Horiuchi T. Hot spring and sauna use for improving blood lipid profiles: A systematic review

and expert consensus on efficacy and recommendations. Complement Ther Med. 2025;94:103241.

3. Maeda T, Makino N, Ohmura K, Yamasaki S, Makishi M, Horiuchi T. Medical effects of balneotherapy for managing diabetes and obesity: a review. Int J Biometeorol. 2026;70(4):94.
4. Yamasaki S, Tokunou T, Kashiwado Y, Makishi M, Horiuchi T. Acute blood pressure responses and safety considerations in heat therapy interventions: A narrative review. Complement Ther Med. 2026;98:103341.

2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究 ～フレイル領域～

松元秀次 茨城県立医療大学・保健医療学部医科学センター・教授
石本立 北海道大学病院・リハビリテーション科
宮良広大 九州看護福祉大学・看護福祉学部リハビリテーション学科

研究要旨

フレイルに対する温泉療法の有効性をシステマティックレビューで検証し、運動療法を組み合わせたエビデンスに基づく標準温泉療法プログラムを構築する。電子化した「温泉療養指示書」を連動させた多施設前向き観察研究により QOL 変化を評価し、DPC を基盤とする診療情報データベース解析から薬物療法のみでは管理不良な患者を抽出して温泉療法の適応患者像を定量的に規定する。得られた知見から標準プログラム、療法医向け指導書、一般向け啓発資料を作成し、温泉療法の適正利用と地域包括ケアにおける健康増進・医療費抑制への貢献を目指す。

A. 研究目的

温泉療法による健康増進効果について、フレイルを包括的に評価し、最新のシステマティックレビューをまずは行う。その次に前向き臨床研究・ビッグデータ解析を統合して「日本発のエビデンス」を体系化する。

B. 研究方法

フレイルに対する温泉療法の有効性をシステマティックレビューで検証し、運動療法も組み合わせたエビデンスに基づく標準的温泉療法プログラムを開発する（フレイル対象）。温泉療法に関する論文の包括的評価と「温泉療養指示書」電子化を行い、多施設前向き観察研究により QOL のアウトカムを評価する。得られた知見から標準プログラム、療法医向け指導書、一般向け啓発資料を作成し、適切な温泉療法の普及と地域包括ケアにおける健康増進・医療費抑制への貢献を目指す。（倫理面への配慮）

研究に対し書面による同意取得後に温泉療法指示書電子化・匿名化データ収集システム構築し、「温泉療法と生活の質に関する検討ー前向き観察研究ー（フレイル対象）」は臨床倫理審査書を提出準備中である

C. 研究結果

1. システマティックレビューの成果

研究代表者である山崎聡氏（聖マリア病院血液内科）の掲げる6テーマのうちのひとつ

フレイルについて解析を行った。

Database、MEDLINE、Embase、CENTRAL、WoSCC、Ichushi-Webから該当する論文を抽出し、58件がスクリーニングされた。そのうち研究目的に該当し、研修デザイン等を勘案したうえで29件が採用された。

k おも29件を吟味、整理して、国際誌へ投稿するレビュー論文を作成中である。

2. 前向き観察研究（温泉療養指示書）

研究代表者である山崎聡氏（聖マリア病院血液内科）が進めている「温泉療養指示書」電子化コホートに準じてフレイル対象の研究する準備中である。

D. 考察

本研究班は、フレイルに対する温泉療法の有効性を確かめるべく、まずはシステマティックレビューを行い、その後に前向き観察研究（フレイル対象）を検討していく。6領域脳うちのフレイルに対するシステマティックレビューにより、温泉および関連する温熱負荷、水治療がフレイル・身体機能・身体活動などに一定の有益な影響を与えうる可能性が示された。

今後のフレイル対象の前向き試験で、エビデンスのさらなる構築とシステマティックレビューの裏付けを行っていきたい。日本発のエビデンスに基づく温泉療法の国際発信と保険適用の議論につなげていくことが、今後の重要な課題である。

E. 結論

本研究は、フレイルに対する温泉療法の効果をシステマティックレビューを行い科学的に検証し、そのエビデンスに基づく標準プログラムを構築することで、地域医療・地域包括ケアに資する新たな介入モデルを提示することを目的としている。

さらに、フレイル対象の前向き多施設研究を推し進めて、温泉療法の多面的な治療効果の可能性を示し、国民の健康増進と医療費・介護費の適正化に貢献することを目指す。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究

研究分担者 大村 浩一郎 神戸市立医療センター中央市民病院 膠原病・リウマチ内科 部長

研究要旨

生活習慣病・ロコモティブシンドロームに対する温泉療法の有効性をシステマティックレビューで検証し、運動療法を組み合わせたエビデンスに基づく標準温泉療法プログラムを構築する。電子化した「温泉療養指示書」を連動させた多施設前向き観察研究により QOL 変化を評価し、DPC を基盤とする診療情報データベース解析から薬物療法のみでは管理不良な患者を抽出して温泉療法の適応患者像を定量的に規定する。得られた知見から標準プログラム、療法医向け指導書、一般向け啓発資料を作成し、温泉療法の適正利用と地域包括ケアにおける健康増進・医療費抑制への貢献を目指す。この研究の中で変形性関節症および痛風・高尿酸血症の担当として論文収集、解析を行い、温泉療法の標準プログラムを作成中である

A. 研究目的

温泉療法による健康増進効果について、変形性関節症、痛風・高尿酸血症に関して、最新のシステマティックレビューと前向き臨床研究・ビッグデータ解析を統合して「日本発のエビデンス」を体系化する。

B. 研究方法

変形性関節症、痛風・高尿酸血症の温泉療法に関するランダム化比較試験 (RCT) のエビデンスを様々なデータベース (MEDLINE, EMBASE, CENTRAL, Web of Science, 医中誌) から収集。論文タイトルとアブストラクトより一次スクリーニングを行い、さらに取り寄せした論文をもと二次スクリーニングを行った。

(倫理面への配慮)

研究に対し書面による同意取得後に温泉療法指示書電子化・匿名化データ収集システム構築し、「温泉療法と生活の質に関する検討ー前向き観察研究ー」は臨床倫理審査承認後、症例登録終了済みである。

C. 研究結果

1. システマティックレビューの成果

変形性関節症の温泉療法に関連する論文 485論文の中からタイトルとアブストラクトによる一次スクリーニングを行い、128論文を取り寄せし、二次スクリーニングを行い水道水を用いたaquatic exerciseなどを除き48論文を採用した。現在、部位別、温泉の質別などで分類して解析中である。

一方、痛風・高尿酸血症の温泉療法RCT論文 22論文の中で二次スクリーニングに入るものはなかったため、記述的にまとめている。

D. 考察

変形性関節症の温泉療法に関する RCT 論文は 48 論文あるが、その泉質や温泉療法の時間や期間、アウトカムに統一性がなく、記述的な総説にならざるを得ない。できる限りの類型化を行い、変形性関節症に対する温泉療法のエビデンスとしてまとめたい。

痛風・高尿酸血症に関しては RCT はないため、RCT 以外の論文や動物実験論文を検索するなどエビデンスを構築する。

E. 結論

変形性関節症および痛風・高尿酸血症に関する温泉療法のエビデンスを収集した。記述的な総説としてまとめている。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
なし

- 2. 実用新案登録
なし
- 3. その他
なし

温泉療法による健康増進効果について、生活習慣病（高血圧、脂質異常症、糖尿病・肥満、高尿酸血症）、フレイル、変形性膝関節症研究の追加可能性調査

眞喜志まり
慶應義塾大学・医学部・特任講師

研究要旨

本研究班では令和6年度から生活習慣病・ロコモティブシンドロームに対する温泉療法の有効性をシステマティックレビューで検証している。システマティックレビューの文献検索は令和6年度に実施したが、2年が経過する現在、新しく関連する研究が報告されているかを確認することを目的として再検索を実施し、関連する可能性がある研究の出版状況調査を試みる。

A. 研究目的

本研究班では、温泉療法による健康増進効果について、生活習慣病（高血圧、脂質異常症、糖尿病・肥満、高尿酸血症）、フレイル、変形性膝関節症について、それぞれ包括的に研究情報を収集・評価する、システマティックレビュー（以下、SR）を実施している。SRを実施するための文献検索は各疾患とも2024年に検索を実施した。その後、新たに関連する可能性がある研究が報告されているかを確認することを目的とする。

B. 研究方法

2024年に実施したそれぞれのSRについて、それぞれ前回検索実施日以降に出版された研究をMELINE (Ovid) で同じ検索戦略を適用し検索する。検索実施日以降の指定については、McGill Librariesのガイド(1)で案内されている検索フィールドを使用する。具体的には、「.dt, ez, da. (Create Date, Entrez date; MeSH date)」を使用する。更新検索は2026年4月14日から4月15日の間に実施する。

C. 研究結果

1. 高血圧

高血圧については、2024年4月以降10件の論文がヒットした。

2. 脂質異常症

脂質異常症については、2024年8月以降4件の論文がヒットした。

3. 糖尿病・肥満

糖尿病、肥満については、それぞれ2024年6月以降21件、2024年7月以降21件の論文がヒットした。

4. 高尿酸血症

高尿酸血症については、2024年8月位以降発表された論文はなかった（ヒット数0件）。

5. フレイル

フレイルについては、2024年8月以降5件の論文がヒットした。

6. 変形性膝関節症

変形性膝関節症については、2024年8月以降27件の論文がヒットした。

D. 考察

高血圧の検索でヒットした文献の中には、Single-Blind Method で実施された研究や hot arm baths の効果を調査した研究が含まれていた。糖尿病の検索でヒットした文献の中には、温水または冷水を使用した有酸素運動の効果を調査した研究が含まれていた。

（高尿酸血症、フレイル、変形性膝関節症については、2026年4月15日現在、令和6年度のSRが未公表のため考察を控える）

E. 結論

システマティックレビューの実施のガイドダンスであるCochrane Handbookでは、新たな研究が完了するにつれ、レビューの結果は古くなり、意思決定者に対して誤解を招く可能性があること、実施したレビューについて更新の必要があるかどうか定期的に評価が必要であることについて言及がある。

本研究では、令和6年度に実施した生活習慣病およびロコモティブシンドロームに対する温泉療法の効果についてのSR以降に出版された研究の出版状況調査を行った。高尿酸血症以外のテーマについて、そのトピックに関連する新しい知見が追加で報告されている可能性が示唆された。しかし、今回検索

された研究が、それぞれのSRにおいて組入となること、レビューの結果に大きく影響を与

える可能性があるかについては、検証していない。

参考文献

1. McGill Libraries. MCGILL LIBRARIES [Internet]. [cited 2026 Apr 15]. Updating the database searches. Available from: <https://libraryguides.mcgill.ca/knowledge-syntheses/updating>

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他

温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究 (高血圧、脂質異常症)

研究分担者 得能 智武 福岡歯科大学 口腔歯学部 教授

研究要旨

本分担研究では、生活習慣病（高血圧、脂質異常症）に対する温泉療法の有効性をシステマティックレビューで検証し、運動療法を組み合わせたエビデンスに基づく標準温泉療法プログラムを構築する。また、DPC を基盤とする診療情報データベース解析から薬物療法のみでは管理不良な患者を抽出して温泉療法の適応患者像を定量的に規定することを目標に、脂質異常症の患者の抽出に資するDPCビッグデータ解析を行った。解析で明らかとなった薬物療法以外の追加的な介入を要する集団においては、温泉療法を含めた生活習慣介入の効果が特に期待される。今後は、システマティックレビューの結果等を踏まえて、別府において温泉療法プログラムの実装及びRCT等の介入研究の実施に向けた体制を構築していく。

A. 研究目的

生活習慣病（高血圧、脂質異常症）に対する温泉療法の有効性をシステマティックレビューで検証し、他分担研究で得られたシステマティックレビューの結果等と合わせて、温泉療法プログラムの実装及びRCT等の介入研究の実施に向けた体制を構築する。また、生活習慣病の診療実態や疾病管理の状況の把握及び温泉療法の効果が特に期待できる集団の特定を目的に、本研究では、脂質異常症の患者の抽出に資するDPCビッグデータ解析を行った。

B. 研究方法

脂質異常症・高血圧と温泉療法に関するシステマティックレビューを行った。

DPCビッグデータ解析については、Medical Data Vision社の全国DPC診療報酬・検査値データベース（約3,000万人規模）を用い、脂質異常症患者約59万人、外来受診約2,360万件を対象に、2024年診療報酬改定前後の脂質管理と心血管アウトカムを後方視的に解析した。

(倫理面への配慮)

温泉療法プログラムの実装及びRCT等の介入研究については、書面による同意取得後に温泉療法指示書電子化・匿名化データ収集システムを構築する。「温泉療法と生活の質に関する検討ー前向き観察研究ー」は臨床倫理審査承認後、症例登録終了済みである。

C. 研究結果

1. システマティックレビューの成果

脂質異常症・高血圧と温泉療法に関する2本は国際誌に採択済み(1, 2)で、温泉・サウナ・入浴介入が血圧・脂質など生活習慣病指標に有益な影響を及ぼしていることが示された。

2. DPCビッグデータ解析（脂質異常症）

LDL-C目標達成率は約58%にとどまり、二次予防例および高齢者で低い傾向を示した。スタチン処方率は約82%であった一方、治療中LDL-Cは約114 mg/dL、主要心血管イベント率は約27件/1,000人年であり、残余リスクが示された。改定前後で薬物療法、脂質管理、短期心血管アウトカムに大きな差は認めなかった。

3. 社会実装・将来展開に向けた成果

別府市湯都ピア浜脇での温泉利用型健康増進施設開設（2026年12月以降予定）を中核に、厚労科研3年目の成果を活用した「別府モデル」実装とRCT等の介入研究につなげるロードマップが班会議で共有されている。

システマティックレビュー・前向き観察研究・DPCビッグデータ解析を基盤とし、今後の温泉療法ガイドライン、専門医育成プログラム、将来的な保険適用・全国ネットワーク構築・国際発信までを見据えた中長期ビジョンが明確化している。研究代表者山崎と共に取り組んでいる「温泉療養指示書」の電子化と前向き

観察研究の進捗の詳細については、総括研究報告書に記載する。

D. 考察

本分担研究で行ったDPCビッグデータ解析（脂質異常症）では、診療報酬改定前後で薬物療法、脂質管理、短期心血管アウトカムに大きな差は認めず、制度改定の長期的効果の検証には、追跡期間延長および準実験的デザインを用いた追加研究が必要と考えられた（英文論文投稿中）。

本解析では、薬物療法以外の追加的な介入を要する集団の存在が明らかになり、特にこの集団については、温泉療法を含めた生活習慣介入の効果が期待される。今後は、システマティックレビューの結果等を踏まえて、別府において温泉療法プログラムの実装及びRCT等の介入研究の実施に向けた体制を構築していく。

E. 結論

本研究では、生活習慣病（高血圧症、脂質異常症）に対する温泉療法の効果についてシステマティックレビューを行った。今後、前向き研究により温泉療法の効果を科学的に検証し、そのエビデンスに基づく標準プログラムを構築することで、地域医療・地域包括ケアに資する新たな介入モデルを提示することを目的としている。

さらに、「温泉療養指示書」の電子化とDCT・AIを活用した多施設研究、別府市の温泉利用型健康増進施設を核とした実装研究を通じて、エビデンスの社会実装と他温泉地への展開可能性を示し、国民の健康増

進と医療費・介護費の適正化に貢献することを目指す。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Yamasaki S, Tokunou T, Kashiwado Y, Makishi M, Horiuchi T. Hot spring and sauna use for improving blood lipid profiles: A systematic review and expert consensus on efficacy and recommendations. Complement Ther Med. 2025;94:103241.
2. Yamasaki S, Tokunou T, Kashiwado Y, Makishi M, Horiuchi T. Acute blood pressure responses and safety considerations in heat therapy interventions: A narrative review. Complement Ther Med. 2026;98:103341.

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

研究成果の刊行に関する一覧表レイアウト（参考）

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
山崎 聡、堀内孝彦	高血圧の温泉療法プログラム	日本健康開発財団	日本健康開発雑誌	日本健康開発財団	東京	2025	第46号 99－104

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Yamasaki S, Kashiwado Y, Akiyama Y, Horiuchi T.	Sleep quality and quality of life in older patients with hypertension after night-time hot spring bathing: a single-institution intervention study.	Ageing International	50	44	2025
Yamasaki S, Tokunou T, Kashiwado Y, Makishi M, Horiuchi T.	Hot spring and sauna use for improving blood lipid profiles: A systematic review and expert consensus on efficacy and recommendations.	Complement Ther Med.	94	103241	2025
Maeda T, Makino N, Ohmura K, Yamasaki S, Makishi M, Horiuchi T.	Medical effects of balneotherapy for managing diabetes and obesity: a review.	Int J Biometeorol.	70(4)	94	2026
Yamasaki S, Tokunou T, Kashiwado Y, Makishi M, Horiuchi T.	Acute blood pressure responses and safety considerations in heat therapy interventions: A narrative review.	Complement Ther Med.	98	103341	2026

「厚生労働科学研究費における倫理審査及び利益相反の管理の状況に関する報告について
(平成26年4月14日科発0414第5号)」の別紙に定める様式(参考)

令和8年5月25日

厚生労働大臣

~~—(国立医薬品食品衛生研究所長)—殿~~

~~(国立保健医療科学院長)~~

機関名 社会医療法人雪の聖母会
聖マリア病院

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 井手 義雄

次の職員の(令和)7年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

2. 研究課題名 温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 血液内科・主任医長

(氏名・フリガナ) 山崎 聡・ヤマサキ サトシ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入(※1)		
		審査済み	審査した機関	未審査(※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(※3)	☒ ☐	☒	社会医療法人雪の聖母会	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐ ☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐ ☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	☐ ☒	☐		☐

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他(特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長） 殿~~
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名 十条武田リハビリテーション病院

所属研究機関長 職 名 院長

氏 名 河野 茂

次の職員の（令和）7年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究
3. 研究者名 （所属部署・職名） リウマチ科部長
- （氏名・フリガナ） 益田 郁子・マスダ イクコ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☐	☒	☐		☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： ）	☐	☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和8年 4月 17日

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 九州看護福祉大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 肥後 成美

次の職員の（令和）7年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

2. 研究課題名 温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究

3. 研究者名 （所属部署・職名） リハビリテーション学科・助教

（氏名・フリガナ） 宮良広大・ミヤラコウダイ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☒	☐	☒	久留米大学	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： ）	☐	☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☐ 無 ☒ （無の場合はその理由：検討しているが、整備時期未定）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合は委託先機関：）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☐ 無 ☒ （無の場合はその理由：分担研究のため未実施）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容：）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和8年4月20日

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 茨城県立医療大学
所属研究機関長 職 名 学長
氏 名 阿部 慎司

次の職員の（令和）7年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究
3. 研究者名 （所属部署・職名） 医科学センター 教授
（氏名・フリガナ） 松元 秀次（マツモト シュウジ）

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☒	☐	☒	茨城県立医療大学	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称： ）	☐	☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 北海道大学

所属研究機関長 職 名 総長

氏 名 寶金 清博

次の職員の令和7年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 北海道大学病院・講師
(氏名・フリガナ) 石本 立・イシモト リュウ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	☐	☒	☐		☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	☐	☒	☐		☐

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。
(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長） 殿~~
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名 大分三愛会 介護老人保健施設 たばる
所属研究機関長 職 名 施設長
氏 名 前田 豊樹

次の職員の（令和）7年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究
3. 研究者名 （所属部署・職名） 大分三愛会 介護老人保健施設 たばる ・ 施設長
（氏名・フリガナ） 前田 豊樹 ・ まえだ とよき

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☐	☒	☐		☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称： ）	☐	☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☐ 無 ☒ （無の場合はその理由：規定は策定されていないため代表者所属機関に委託）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☐ 無 ☒ （無の場合は委託先機関：委員会は設置されていないため代表者所属機関に委託）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長） 殿~~
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名 地方独立行政法人神戸市民病院機構
神戸市立医療センター 中央市民病院

所属研究機関長 職 名 病院長

氏 名 貝原 聡

次の職員の（令和）7年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究
3. 研究者名 （所属部署・職名） 膠原病・リウマチ内科・部長
- （氏名・フリガナ） 大村 浩一郎（オオムラ コウイチロウ）

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☐	☒	☐		☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称： ）	☐	☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☐ 無 ☒ （無の場合はその理由： 弊院で定める利益相反管理委員会要綱の“経済的な利益関係のうち申告を要する項目”に該当しないため ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長） 殿~~
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名 福岡歯科大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 高橋 裕

次の職員の（令和）7年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究
3. 研究者名 （所属部署・職名）福岡歯科大学・総合医学講座・内科学分野・教授
(氏名・フリガナ) 得能 智武・トクノウ トモタケ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☐	☒	☐		☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	☐	☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ (無の場合はその理由：)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ (無の場合は委託先機関：)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ (無の場合はその理由：)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ (有の場合はその内容：)

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和8年 3月 23日

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 広島赤十字・原爆病院

所属研究機関長 職 名 院長

氏 名 古川 善也

次の職員の（令和）7年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

2. 研究課題名 温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究

3. 研究者名 （所属部署・職名） リウマチ科・医師

（氏名・フリガナ） 柏戸 佑介・カシワド ユウスケ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☐	☒	☐		☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称： ）	☐	☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☐ 無 ☒ （無の場合は委託先機関：委員会を設置されていないため代表者所属機関に委託）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長） 殿~~
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名 同志社大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 小原 克博

次の職員の（令和）7年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

2. 研究課題名 温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究

3. 研究者名 （所属部署・職名） スポーツ健康科学部・教授

（氏名・フリガナ） 北條 達也（ハウジョウ タツヤ）

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☐	☒	☐		☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称： ）	☐	☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和8年 4月 6日

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 日本温泉気候物理医学会

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 堀内 孝彦

次の職員の（令和）7年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

2. 研究課題名 温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究

3. 研究者名 （所属部署・職名） 日本温泉気候物理医学会・会員

（氏名・フリガナ） 牧野 直樹 ・ マキノ ナオキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☐	☒	☐		☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称： ）	☐	☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和8年 5月18日

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 地方独立行政法人福岡市立病院機構
福岡市民病院

所属研究機関長 職 名 院長

氏 名 堀内 孝彦

次の職員の（令和）6年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

2. 研究課題名 温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究

3. 研究者名 （所属部署・職名） 地方独立行政法人福岡市立病院機構 福岡市民病院 院長

（氏名・フリガナ） 堀内 孝彦 （ホリウチ タカヒコ）

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☒	☐	☒	地方独立行政法人福岡市立病院機構 福岡市民病院	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称： ）	☐	☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和8年 4月 17日

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 国立大学法人鹿児島大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 井戸 章雄

次の職員の（令和）7年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

2. 研究課題名 温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究

3. 研究者名 （所属部署・職名） 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科・教授

（氏名・フリガナ） 林 敬人・ハヤシ タカヒト

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	☒	☐	☒	社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： ）	☐	☒	☐		☐

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 慶應義塾大学
所属研究機関長 職 名 学長
氏 名 伊藤 公平

次の職員の令和 7 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部・特任助教
(氏名・フリガナ) 眞喜志まり・マキシ マリ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	☒	☐	☒	社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐	☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐	☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	☐	☒	☐		☐

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。
その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。
(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。